

患者さんへ

【COPD 患者における筋肉減少症】に関する研究について

【研究概要及び利用目的】

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は不可逆性気流制限を主徴とする疾患で、気腫化、るいそうを認めます。COPD において、BMI、除脂肪体重などが予後との相関を示すことが示されています。近年、四肢筋量の減少（サルコペニア）の概念が示されており、生命予後との関連が示唆されていますが、COPD におけるサルコペニアの長期的影響は知られていません。本研究は過去に当科においてバイオインピーダンス法にて体組成情報を計測し、四肢筋量が判明している COPD 患者のなかで、その後通常の COPD 診療を受けている COPD 患者を対象として、COPD の肺機能予後、増悪頻度、生命予後等をカルテより情報を抽出して、サルコペニアの影響を検討することになりました。

【研究期間】 2016 年 8 月 31 日まで

【研究機関名】 大阪市立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学

【取り扱う試料及びデータ】

- ・体組成情報：以前に各種研究に用いることをご同意頂いた患者さんにおいて測定させて頂いた結果です。
- ・データ：患者さんのカルテから、性別、年齢、体重、喫煙歴と、増悪による受診・入院、死亡等について調べさせていただきます。